

社会人対象講座 キャリアアッププログラム

Basic subject Career Up Program

広島経済大学キャリアアップ・プログラム・メールマガジン 第137号(2015.4.2発行)

このメルマガは、どなたに転送いただいても構いません。

なお、本メールが不要な方は career-up@hue.ac.jp までご連絡ください。

【過去の CP 通信をご覧ください】:http://www.hue.ac.jp/lecture/careerup/cp_magazine.html

【目次】

- ・巻頭言……………広島経済大学 経済学部
経営学科 教授 矢澤 利弘
- ・2015 年 1 学期 キャリアアップ・プログラム(CP)授業計画(シラバス)のご紹介
 - 金曜日開講 『国際金融の基礎』…ベーシック科目
 - 『原価計算論の基礎』…ベーシック科目
- ・平成 27 年度 入学式を挙げる
- ・経大見聞録
- ・読者の皆様からのエッセーの投稿をお待ちしております
- ・キャリアアップ・プログラム(CP)/カルチャー講座(CS)または本学に関する、ご質問やお問い合わせ

■巻頭言

広島経済大学 経済学部

経営学科 教授 矢澤 利弘

1 学期 CP 講師『簿記の初歩から始める財務諸表分析』

短編映画と短編映画祭の愉しみ

皆さんは短編映画という言葉聞いてどんなことを思うだろうか。素人が作った自主映画だとか、とても映画館やテレビで見せるレベルの映画ではないのではないか、などという声が聞こえてきそうである。だが、1895年12月28日にフランスのリュミエール兄弟が初めて映画をパリで人々に有料公開して以来、約10年の間は、映画はそもそも短編しか存在しなかった。例えば、リュミエール兄弟が製作した世界初の実写映画といわれる『工場の出口』や、蒸気機関車が駅に到着する様子を撮影した『ラ・シオタ駅への列車の到着』はいずれも1分足らずの無声の記録映画である。

その後、物語構成を持った映画として、ジョルジュ・メリエス監督のフランス映画『月世界旅行』やエドゥエイン・ポーター監督による『大列車強盗』が撮影されたが、両者ともに15分以内の作品であった。

上映時間が70分を超える映画が現れたのは1906年以降である。それ以後、長編映画が映画興行の主流になり、短

編映画はニュース映画、文化映画、教育映画、産業映画を中心に製作が続けられた。

20世紀の前半、映画産業は急速に発展を続けていったが、1960年代以降、家庭にテレビが普及するに従い、映画産業は成長から縮小へと転じる。日本国内の映画館への入場者数は1958年の11億2745万2000人をピークに、それ以降の10年間で3分の1以下にまで落ち込んだ。1970年代以降も映画人口は減少が続き、大手映画会社は助監督の採用を中止した。米国では1960年代の映画館の観客数は1950年代のほぼ半分に落ち込み、1963年には史上最低の年間製作本数(121本)を記録する。多くの負債を抱えるに至ったメジャー・スタジオは1960年代に次々と映画以外の巨大産業に吸収・合併されていった。

そのため、映画監督を志す者は、映画会社に就職して、映画監督に昇進するというコースを歩むのではなく、自主制作映画を撮って発表することによって、自らの才能をプレゼンテーションしていくという方法に活路を見いだすようになる。

そうした背景と相まって、映画祭の人材発掘及び育成機能が注目されるようになった。特に短編映画は、比較的短期間で制作することが可能であり、作家性を強く表現できる表現手段であることなどから、短編映画祭は、若手監督の発掘機能が大きい。

『仕立て屋の恋』や『髪結いの亭主』などで有名なフランス人の映画監督パトリス・ルコントは、昨年12月に訪れた「京都ヒストリカ国際映画祭」のトークショーで、短編映画と短編映画祭が自分に与えた影響について、次のように語っていた。

映画を作ることなんて夢だと思っていた。ある日、住んでいた町で短編映画祭があり、そこで上映された短編映画を見ているうちに、ひょっとしたら映画を作ることにはそんなに遠い夢ではないのではないかと思い始めた。その後、映画学校に行ったが、何も学ばなかった。映画館で映画を見たり、安い予算で短編映画を撮り始め、学んだことが多かった。

このコメントに代表されるように、多くの若手のフィルムメーカーにとって、短編映画は、長編映画を制作するための登竜門として位置づけられ、短編映画を作ること自体が、自らの能力を開発するための訓練の場として機能している。また、短編映画祭は、そうした若い才能をプレゼンテーションするためのショーケースであり、フィルムメーカー志望者に対する動機付けの場となっている。そして、映画祭による人材育成機能の循環により、新たな人材育成につながっていくことが期待される。

長時間に渡ってスマートフォンで映画を視聴するのはなかなか大変だが、短い映画であれば、ちょっとした空き時間にも視聴することが容易である。短編映画はそんなところからも注目されている。

■平成27年度 入学式を挙行

4月1日、広島経済大学経済学部 経済学科第49回245名、経営学科第42回231名、ビジネス情報学科第14回55名、メディアビジネス学科第12回49名、スポーツ経営学科第5回80名、(学部入学生合計660名) 大学院経済学研究科博士課程5名の入学式が、桜満開の本学キャンパス内の石田記念体育館で午前10時より挙行されました。



■ 2015 年(次年度)1 学期 キャリアアップ・プログラム(CP)授業計画(シラバス)をご紹介します。

- 金曜日開講 『国際金融の基礎』…ベーシック科目
『原価計算論の基礎』…ベーシック科目

毎週金曜日(5/22,5/29,6/5,6/12,6/19,6/26…計 6 回)

科目名		国際金融の基礎
担当者		福居 信幸(ふくい のぶゆき)
副題		国際金融のしくみをきちんと理解したうえでビジネスや資産運用のリスク判断を下したいあなたのために
対象者		常日頃、ビジネスシーンやご自身の資産運用の際に、国際金融の知識が不十分と感じている人。特に外国為替取引に関する知識が必要と感じている人。
到達目標		世界の経済・金融情勢に関するニュースをもとに、ビジネス上や資産運用上での最適な意思決定が下せるようになること。
概要		初めて国際金融を学ぶ人に、国際金融とは何か、また、それは私たちの生活にどのような影響を与えているかをできるだけ分かりやすく解説します。難解とされる経済や金融の用語やメカニズムを、図表やイラストを交えながら、より身近なものとして感じていただけるように説明します。
授業内容	第1回	国際金融とは何か～国を超えて動く資金の流れを中心に～
	第2回	国際金融市場と銀行の役割
	第3回	国際資本市場(海外の株式市場と債券市場)と機関投資家の動き
	第4回	為替相場の基礎と外国為替市場のしくみ
	第5回	為替相場の決定理論と最近の円相場の動向
	第6回	最近の国際金融動向
授業の形式		座学
授業の進め方		レクチャーを中心に基本的には一話完結型で進めていきます。毎回授業の冒頭に、前回の講義内容に対する受講者の疑問や質問についてお答えする時間を設けます。
教材費などの追加負担		教材費などの負担はありません。資料はその都度配付します。
受講者へのメッセージ		複雑な国際金融の世界は、テレビの解説や書籍などからではなかなか分かりにくいものです。重層的・複合的に絡み合う国際金融のしくみを一緒にひも解いてみませんか。
講師紹介(自己紹介)		福居 信幸(経済学部 経済学科 教授) 1955年京都市生まれ。1979年東京大学経済学部卒業後、東京銀行(現三菱東京UFJ銀行)入行。30年間の同行勤務のあと、2009年4月より、本学経済学科教授。銀行では、外国為替業務、融資業務、経営企画業務(当局担当)、財務アドバイザー業務などに携わるとともに、ニューヨーク、ロンドン、香港での計12年半の海外勤務の経験がある。

科目名	原価計算論の基礎
担当者	天王寺谷 達将(てんのうじや たつまさ)
副題	よく耳にする「コスト」・・・きちんと理解したいあなたのために
対象者	日常の業務、テレビやネットのニュース、新聞、経済雑誌等で「コスト(原価)」という単語をよく耳にするけれども、そのコストってどうやって計算しているの？そもそもコストを計算する意義って何？コストの計算手法にはどのようなものがあるの？本講義は、これらの疑問を解消したい方々を対象としています。会計の知識は若干必要となりますが、コスト計算(原価計算)について学びたい意欲のある方はどなたでも本講義の対象者です。
到達目標	コストの計算方法、コストを計算する意義、様々なコスト計算手法について、きちんと理解できるようになることが本講義の到達目標です。
概要	原価計算(=コストアカウンティング)とは、すなわちコスト(=原価)を計算することです。原価を計算する目的は、財務諸表作成目的、マネジメント目的と大きく2つに大別されますが、本講義では両方を扱います。第1回では、原価計算を理解するにあたっての基礎を学習します。第2回では、財務諸表作成目的の原価計算として、主に実際原価計算手法について学びます。第3回では、マネジメント目的の原価計算の概要を学習し、第4回、第5回では、その具体的な手法として、標準原価計算、直接原価計算、原価企画、ABC(活動基準原価計算)、マテリアルフローコスト会計について学習します。第6回では、近年重要なトピックとして挙げられる「イノベーション」を促すために原価計算はどのように利用できるのかについて、講師の研究から得られた知見を基に学習します。
授業内容	第1回 原価計算の基礎 第2回 財務諸表を作成するために行う原価計算 第3回 マネジメントのために行う原価計算 第4回 標準原価計算・直接原価計算 第5回 原価企画・ABC・マテリアルフローコスト会計 第6回 イノベーションを促すための原価計算
授業の形式	座学
授業の進め方	基本的にはレクチャー形式で進めていきますが、時間が許せば、受講者の皆さんとの議論の時間も取りたいと思っています。
教材費などの追加負担	教材費の負担はありません。
受講者へのメッセージ	疑問が生じたら、積極的に質問して下さい。本講座が、受講者の皆さんにとって意義のあるものになれば幸いです。
講師紹介(自己紹介)	天王寺谷 達将(経済学部 経営学科 助教、博士(経営学)) 専門は、原価計算、管理会計。2013年3月神戸大学大学院経営学研究科博士課程後期課程修了。同年4月より広島経済大学経済学部経営学科助教。主に、イノベーションと管理会計の関係性、マテリアルフローコスト会計について実践の観点から研究している。

■経大見聞録

本学のHPに掲載してある記事をご紹介します。生き活きた明るい学生の表情がうかがえます。URLをクリックして、本学の学生たちの様子をご覧いただければと思います。

お仕事等の気分転換、コーヒープレイクにご覧いただけましたら幸いです。

【3/20】インドネシア国際貢献プロジェクトが現地での活動を終えて無事帰国しました

<http://www.hue.ac.jp/tagblocks/news/news/topics/0000008722.html>

【3/23】子ども達を守ろうプロジェクトが未就学児対象防犯イベントを開催しました

<http://www.hue.ac.jp/tagblocks/koudoukan/news/topics/0000008729.html>

【3/23】平成27年度AO入学者対象入学前セミナーを実施いたしました

<http://www.hue.ac.jp/tagblocks/koudoukan/news/topics/0000008732.html>

【3/24】大学間連携共同教育推進事業 リーダーシップ・チャレンジ in 韓国が開催されました

<http://www.hue.ac.jp/tagblocks/koudoukan/news/topics/0000008734.html>

【3/24】カンボジア国際交流プロジェクトが現地での活動を終えて無事帰国しました

<http://www.hue.ac.jp/tagblocks/koudoukan/news/topics/0000008736.html>

■読者の皆様からのエッセーの投稿をお待ちしております

皆様からのエッセーを募集しています。日常の出来事、つぶやき何でも構いません。また匿名やペンネームで結構です。ご投稿をお願いいたします。(個人情報取り扱いは十分配慮いたします)

【エッセーご寄稿頂ける方は】

どなたでも結構です。ご寄稿頂ける方は career-up@hue.ac.jp または 082-871-9345 までご連絡ください。掲載の日程をご連絡いたします。

■キャリアアップ・プログラム(CP)やカルチャー講座(CS)または本学に関する、ご質問やお問い合わせは下記の連絡先へご連絡ください。

〒731-0192

広島市安佐南区祇園五丁目 37-1

広島経済大学 教育・学習支援センター

お問い合わせは電話番号(082)871-9345 または E-mail career-up@hue.ac.jp までどうぞ。

HUE 広島経済大学
CAREER UP PROGRAM